



召集猶豫及免除

1896

兵

召喚等免除也

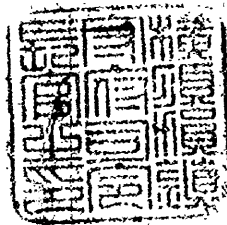
積算八四號

大正五年一月十日

横須賀鎮守府司令長官

藤井 較

海軍大臣加藤友三郎殿



勤務演習簡閱點呼召集免除者ノ件

徵集年

共 種

勤務演習簡閱點呼免除年  
月日及番號

事務清帳官職

本籍地

氏名

明治三年

後備兵  
一等卒

明治三年四月八日開批四號  
全五十一日官房第七・四

大正五年一月十日

海軍

東京市本郷區  
時町十番地

飯田定吉

右御届

人事局

終

1897

兵部目出

本件ニ  
関スル照會  
回答等ニ必  
本書ノ日附  
番號ヲ記  
載セラレ  
タシ

人事局

打合  
件

陸軍省第五二四號

南洋台領諸島ニ在ル者徵集捕豫ニ関スル件

大正五年二月三十日 陸軍省副官和田龜治

陸軍省副官大角岑生殿

南洋台領諸島ニ在ル者ニテ臨時南洋防備

隊司令官ノ證明書ヲ添ヘ徵集捕豫ヲ教出テ

先トキニ徵集捕豫第五十五條第一項ノ大使

以下ノ證明書ヲ添ヘ教出テ先者ニ準シテ取扱フコ

トト致ル旨右所明方出教者ニ對シテ可然御取計

相成候也

官房第四七五號

三月三十日 官報ニ告示スル

陸軍

五年二月廿四日  
二月廿四日  
官房

1898

海軍

大正五年二月十七日午後三時二十八分發信

人事局長



局員



電報案

大正五年二月十七日

發信者

局長

受信者

南洋防備司令部

長官

返、南洋諸島在住邦人ニ徴兵猶除ク、次々換了ノ事場  
修例力五十五條ノ説明者ニ南洋防備司令部  
ノ説明ニ付テハ又ハ

尾加納

1899

人事局長

局員



禁

海軍

大正九年五月廿七

新陳垣軍者 事局の事

長坂陸軍省軍務局長の課長

南洋に於ける物産の調査

南洋に於ける物産の調査は、南洋に於ける物産の調査に關する

南洋に於ける物産の調査は、南洋に於ける物産の調査に關する

南洋に於ける物産の調査は、南洋に於ける物産の調査に關する

南洋に於ける物産の調査は、南洋に於ける物産の調査に關する

南洋に於ける物産の調査は、南洋に於ける物産の調査に關する

南洋に於ける物産の調査は、南洋に於ける物産の調査に關する

南洋に於ける物産の調査は、南洋に於ける物産の調査に關する

南洋に於ける物産の調査は、南洋に於ける物産の調査に關する

南洋に於ける物産の調査は、南洋に於ける物産の調査に關する

小

1900

局長宛



當占領諸島在住邦人の徴兵猶豫ノ資格有ルモ、  
ナルヤ（占領前ヨリ居住者及占領後ノ渡航者  
モ同一ナルヤ）資格有リトセハ徴兵事務條例第  
五五條ノ證明書ハ臨時南洋群島防備隊司令  
官又ハ守備隊長ノ證明ヲ差支ナキヤ御伺ス  
二月十七日

臨南防副官

1901

電 報 着 信 紙

局 着		局 発		名氏所居人信受	
取扱者	受信	付午後	付午後	第 号	局 報
	後前	後前	後前	日 號	官 報
	時 分	時 分	時 分		
取扱者 受信 付午後 後前 時 分				第 号 日 號	
局 報 官 報				名氏所居人信受 (Handwritten names and addresses)	
定 指 (Large handwritten area for message content)				番着 紙數 名氏所居人信發 第 号 番 號 印附日信着	
事 記 (Large handwritten area for message content)				番 號 印附日信着	

1902

# 電 報 着 信 紙

局 着		局 發				名氏所居人信受					
取 扱 者	受 信	付 受 午 後 前	付 受 午 後 前	第	官 報	<div style="font-size: 2em; margin-bottom: 10px;">二</div>					
		時 分	時 分	月 日	局 號						
<div style="font-size: 1.5em; font-family: cursive;">                 東京 11月 1日 午後 4時 4分                  大阪 11月 1日 午後 4時 4分                  京都 11月 1日 午後 4時 4分                  神戶 11月 1日 午後 4時 4分                  名古屋 11月 1日 午後 4時 4分                  仙台 11月 1日 午後 4時 4分                  札幌 11月 1日 午後 4時 4分                  旭川 11月 1日 午後 4時 4分                  釧路 11月 1日 午後 4時 4分                  帯広 11月 1日 午後 4時 4分                  青森 11月 1日 午後 4時 4分                  岩手 11月 1日 午後 4時 4分                  秋田 11月 1日 午後 4時 4分                  山形 11月 1日 午後 4時 4分                  宮城 11月 1日 午後 4時 4分                  福島 11月 1日 午後 4時 4分                  茨城 11月 1日 午後 4時 4分                  栃木 11月 1日 午後 4時 4分                  群馬 11月 1日 午後 4時 4分                  埼玉 11月 1日 午後 4時 4分                  千葉 11月 1日 午後 4時 4分                  東京 11月 1日 午後 4時 4分                  神奈川 11月 1日 午後 4時 4分                  山梨 11月 1日 午後 4時 4分                  長野 11月 1日 午後 4時 4分                  新潟 11月 1日 午後 4時 4分                  富山 11月 1日 午後 4時 4分                  石川 11月 1日 午後 4時 4分                  福井 11月 1日 午後 4時 4分                  岐阜 11月 1日 午後 4時 4分                  愛知 11月 1日 午後 4時 4分                  三重 11月 1日 午後 4時 4分                  滋賀 11月 1日 午後 4時 4分                  京都 11月 1日 午後 4時 4分                  大阪 11月 1日 午後 4時 4分                  和歌山 11月 1日 午後 4時 4分                  奈良 11月 1日 午後 4時 4分                  徳島 11月 1日 午後 4時 4分                  香川 11月 1日 午後 4時 4分                  高松 11月 1日 午後 4時 4分                  愛媛 11月 1日 午後 4時 4分                  高知 11月 1日 午後 4時 4分                  福岡 11月 1日 午後 4時 4分                  佐賀 11月 1日 午後 4時 4分                  長門 11月 1日 午後 4時 4分                  山口 11月 1日 午後 4時 4分                  徳島 11月 1日 午後 4時 4分                  香川 11月 1日 午後 4時 4分                  高松 11月 1日 午後 4時 4分                  愛媛 11月 1日 午後 4時 4分                  高知 11月 1日 午後 4時 4分                  福岡 11月 1日 午後 4時 4分                  佐賀 11月 1日 午後 4時 4分                  長門 11月 1日 午後 4時 4分                  山口 11月 1日 午後 4時 4分             </div>						定 指	番着 信 號		數紙	名氏所居人信發	
						事 記	第	二	號	印附日信着	

1903



起案罪紙

大正五年 二月廿四日 起案

起案者 捺印

三月 一日 發付

發付掛 捺印

發付後起 捺印

案者捺印

局部 受印 發月日

大臣官房受

人事局長

岡田

局員

發付

發付

大臣濟

次官

發付

參事官

副官

發付

局部	官房	軍務	人事	醫務	經理	司法	艦政	技本	造兵	教育	臨建	水路	軍令
受印	大臣官房受												
發月日													

大正五年二月二十五日

大臣

内閣總理大臣宛

後備役陸軍中三等計手石黒健司ハ現今海軍技手奉職中一語餘ノ  
以テ代リカズル者ニ候テ勤務演習及簡閱點呼召付テ免除可キ事ヲ

號番

信房第五〇二號

五

五

1904

右男状ス

官房第五〇三號ノ三

大正五年三月一日

大臣

吳鎮守府長官宛

吳鎮守府一三六號 海軍技手石黒健司召集免除件 別紙ノ通函可相寄

矣條本人所屬ノ職隊区司令官ニ通報方取付ク

右訓令ス

(別紙ニ葉添) 寫シ送ル

捺原納

1905

人事局

大正五年二月十七日

吳鎮守府司令長官 伊地知季珍

海軍大臣加藤友三郎殿

勤務演習及簡閱點呼召集免除ノ事

事務分擔 氣象掛 海軍技手 明治三十二年徵集 後海軍陸軍等計手 石黒健司

右者 吳鎮守府 望樓監督 下付 兼 文章付トシテ

氣象觀測事務ヲ 介擔シ 餘人ヲ以テ 代フヘカラスル 樞

要常務ニ 服セシメ 居候ニ 甘 勤務演習 簡閱點

呼召集免除ノ 儀 特ニ 御 詮議 相成 度

右 上 申 ス

伊

一 房 受

1906

供

事  
局

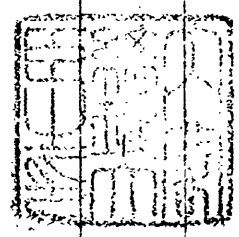
内閣兵第一五六号一

大正五年二月二十九日

内閣總理大臣伯爵大隈重信

指令

大正五年二月二十五日官房第五〇三號  
召集免除ノ件認可ス



官房第五〇三號一

内閣

三月二日  
官房受

1907

人事局

内閣  
兵部第三八号

大正五年四月二十五日

内閣總理大臣伯爵大隈重信

指令

大正五年四月二十二日付官房第九九五號ノ二  
召集免除ノ件認可ス

官房第九九五號

1908

大正五年四月廿八日起案

起案者 捺印

吉

四月廿八日發付

發付掛 捺印

吉

林

發付後起 案者捺印

人事局長 第一課長 局員

大臣濟

副官

次官

參事官

山

信

吉

軍務	官房	局部	受月日	發月日
人事	軍務	官房	四月廿一日	
醫務	經理	司法		
艦政	技木	造兵		
教育	臨建	水路		
軍令				

大正五年四月二十二日 大臣 內閣總理大臣宛

後備隊陸軍中尉兵中尉牧重鹿輔ハ且下海軍技手奉職中ニシテ餘人ヲ多クシテハ  
 尤若ニ候條 勅務方漢留及尚周點呼石印示先除加分

號番

右男物ス

官房第九九五號ノ四

大正五年四月二十八日

水路部長ニ

大臣

水芳一六也 旗海軍 牧聖 鹿輔 足集 九除 件 中 通 認 可 相 成 糸  
奉人 可 房ノ 職 隊 正 司 合 右 三 通 報 才 取 付 一 一  
右 洲 合 不

（第一番）

（後）

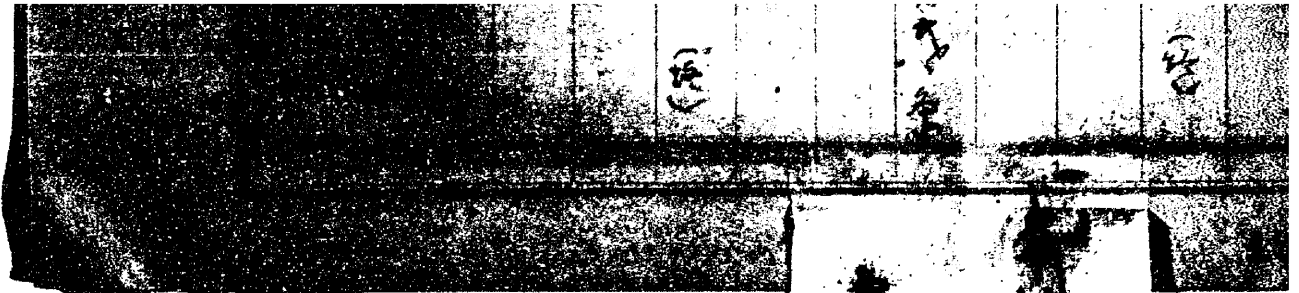
（終）

原 納

1910

本件

本件



(4)

人事

部

人事

人事局

人事

1911

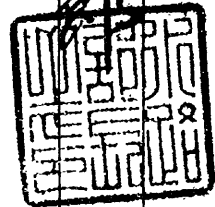


人事局

水第一六四號

大正五年四月四日

水路部長 釜屋六郎



海軍大臣 加藤友三郎 殿

縁後備以下士勤務演習召集  
及簡閱點呼免除件

當都文官ニシテ別紙人者ハ在職中餘  
人ヲシテ代フヘカラスル職務ニ從事スル  
年中ノ大半ハ測量ノ為メ出張致シ居候ニ付  
陸軍軍人服役令第四條ヨリ勤務演習  
召集及簡閱點呼免除ノ義御取計ニ  
相成候

實録第九九五號

海軍

五年四月五日  
四月五日  
官房受

1912

右  
上  
事  
ス

(別紙壹葉添)

(終)

洋

七

1913

											現官職名		海軍技手	
											兵後関係者調		兵後官名	
											本籍		東京府豊多摩郡 赤坂町字柏台	
											氏名		牧野 茂輔	
											(終)			

海軍

起案罪紙

大正五年五月廿七日起案  
 起案者 捺印  
 六月三日發付  
 發付掛 捺印  
 發付後起 案者捺印

大臣 齋  
 副官 大  
 第一課長  
 局員  
 善

次官 參事官

大正五年五月二十二日 大臣

内閣總理大臣宛

後備後陸軍騎兵中隊 三浦市次郎八現今海軍技手奉職中 餘人  
 加々子等若 三條勸修 演習及 簡圖駐呼 在 世 亦 是 除 湯 可 相 成 之

番 號 官 府 一 五 六 六 號 一 二

軍令	水路	臨建	教育	艦政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局部	受月日	發月日

1915

右具状不

官房第 五十六號ノ四

大正五年五月三日

大臣

吳鎮守府司令長官宛

吳鎮守府九三旅 海軍技手三浦市次郎一右條免除ノ件一別紙ノ通報ヲ  
相対ニ條事ノ所屬ノ照隊区司令官ニ通報方計ノ上  
右訓令不

(別件一彙括) 官一送ル

1916

人事局

吳鎮第九九三號

大正五年五月十七日

吳鎮守府司令長官 伊地知季珍

海軍大臣加藤友三郎殿



勤務演習並、簡閱點呼召集免除、件

海軍技手

明治三十八年  
海軍技手  
職務免除

三浦市次郎

右者當海軍工廠造船部付勤務、者ニシテ新造船

艇、機装ニ関スル圖面、計畫製圖ヲ擔任シ餘人ヲ以

テ代フベカラサル 樞要業務ニ服セシメ居候ニ付勤務演習

簡閱點呼召集免除、義特ニ御詮議相成度

右上申ス

（印）

第五六六號

五年五月廿日  
五月二十日  
官房受

海軍

1917

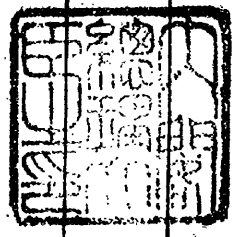
人事局

内閣兵第四九号

大正五年五月二十六日

内閣總理大臣伯爵大隈重信

指令



大正五年五月二十二日付官房第一五六六號ノ二

召集免除ノ件認可ス

官房第一五六六號ノ三

内閣

官房受

1918

起案罪紙

大正五年七月七日起案

起案者  
捺印

善

七月七日發付

發付掛  
捺印

善

小

發付後起  
案者捺印

人事局長岡田第一課長

局員

善

大臣

副官

善

次官

參事官

大正五年七月八日

次官

横須賀

舞

鎮中村用全長官宛

陸軍豫備役後備役補充兵下士中 勤務演習中 猶豫

番

官房第一九七九號

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	艦政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局部
												受月日 七月七日	發月日
												官房受	

1919



関スル件

本件ニ関シ別紙ノ通陸軍次官ヨリ回答有之矣條示知相成度  
右申進ス

(第一案件)

ノ

七

兼原納

1920

供覽

人事局

第 二 二 三 四 號

露小軍艦レスウエート救難派老職工勅

務演習召集於豫及簡閱點呼免除ノ件

大正五年七月四日 陸軍次官 山田 陸軍

海軍次官 鈴木貫太郎 殿



六月三十日官房第一九七九號ノニテ露國

軍艦レスウエート救難ノ為浦塩斯德一

派遣職工ノ勅務演習召集於豫及簡

閱點呼免除ノ簡口責省大由多而照

會ノ趣了承右ノ事情ニムテ得サレモト

露小軍艦レスウエート救難派老職工勅  
大正五年七月五日

人事局受  
五月五日

1921

豫及簡閱詰年免除方不而計標史也  
關係者廳一用除致至候條承知在成  
度候也

1922

起案野紙

大正五年 六月廿三日起案

起案者 捺印

善

六月三十日發付

發付掛 捺印

小秋

發付後起 案者捺印

( ) 人事局長

岡田 第一課長

局員

局員

善

大

馬

次官 參事官

副官

山

山

横濱支三十三  
在野紙

大正五年六月三十日

大臣

陸軍大臣宛

陸軍豫備役後備役補充兵及下士等一勸務演習

教育召集及簡閱點呼猶豫・附二件

番

官房第一九九七號

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	艦政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局部
												受月日	發月日
												官房受	

1923

別紙記載、村崎本次郎以下二十三名ハ今回露國軍艦「ベレスウポート」救難ノ  
為浦塩斯德、派遣シタル事ニ有之候條、特ニ大正五年度勤務演習教育  
召付亦及簡閲點呼猶豫ノ尋詰取計一相可度  
右如人會ス

也ヲ本件ハ各自月ノ届出ツルノ外ニ他處ニ在リテモ命シテモ未ダ提<sup>ナリ</sup>レ<sup>テ</sup>居<sup>ラ</sup>ズ

(別紙一葉添)

(終)

1924

至急

参謀長

副官

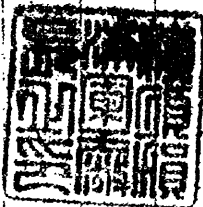
横濱受五年六月二十日

廣策

大正五年六月十九日

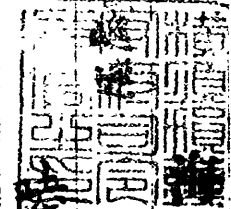
横須賀海軍工廠長江口鱗

軍大臣 加藤友三郎殿



六月二十

人事局



陸軍豫備役後備役補充兵役下士卒

勤務演習教育召集時間短呼猶豫方

具申ノ件

別紙記載ノ者今回露國軍艦ヲベレスウエー上放難ノ為メ

浦塩斯德ニ派遣セラレタルモノニ付大正五年度勤務演習教育

育召集簡閱點呼猶豫方御詮議相成様致度

右具申ス

副申右ノ各自ヨリ届出ツヘキノ處急遽出発ノ命令

九七九號

毎

五

1925

依り之方届出ノ暇無之モノニ付申添候

洋

旨

終

1926

横須賀海軍工廠在籍職工

本籍地	徵集年	役種	兵種等級	氏名
横須賀市不 <sub>三二九番地</sub>	三十七年	後備役	工兵一等卒	村崎 奎次郎
神奈川県三浦郡 <sub>三浦郡</sub> 山村 上山口 <sub>三五五七番地</sub>	三十七年	補充兵役	砲兵二等卒	岩澤 榮吉
横須賀市 <sub>九番地</sub>	三十五年	後備役	歩兵二等卒	石渡 榮藏
神奈川県鎌倉郡 <sub>鎌倉郡</sub> 鎌倉町 <sub>三十八番地</sub>	三十八年	全	砲兵二等卒	山口 甚藏
横須賀市 <sub>五番地</sub>	三十八年	全	砲兵二等卒	若林 治作
横須賀市 <sub>二一七番地</sub>	三十八年	補充兵役	工兵二等卒	戸倉 鋈五郎
神奈川県三浦郡 <sub>三浦郡</sub> 明賀町 <sub>大七一七番地</sub>	四十年	後備役	歩兵一等卒	小松 與一
神奈川県三浦郡 <sub>三浦郡</sub> 明賀町 川向 <sub>七八番地</sub>	三十七年	全	砲兵上等兵	山本 勘藏
神奈川県三浦郡 <sub>三浦郡</sub> 大室村 小矢部 <sub>五三九番地</sub>	三十七年	全	砲兵上等兵	原 峰吉
神奈川県三浦郡 <sub>三浦郡</sub> 大室村 <sub>五三九番地</sub>	三十九年	全	歩兵一等卒	山田 市藏
横須賀市 <sub>九番地</sub>	三十七年	全	工兵一等卒	青木 久藏

毎頁

1927



神奈川縣三浦郡三浦町	三十五年	後備使	步兵一等卒	高橋仙藏
神奈川縣三浦郡三浦町 大倉三六二番地	三十五年	左	騎兵一等卒	鈴木歌吉
神奈川縣三浦郡三浦町 大平三〇番	三十五年	左	步兵上等兵	宮内八藏
神奈川縣三浦郡三浦町 一色二一八番地	四十年	左	騎重騎卒	守谷八藏
神奈川縣三浦郡三浦町 中崎四五番地	三十五年	左	步兵一等卒	角谷忠五郎
神奈川縣三浦郡三浦町 相模宿市三見 一四七二番地	四十三年	後備使	工兵一等卒	鈴木田藏
神奈川縣三浦郡三浦町 三火三三番地	四十五年	左	騎重騎卒	角井定吉
神奈川縣三浦郡三浦町 大津二三八四番地	四十五年	左	步兵上等兵	竹永順藏
神奈川縣三浦郡三浦町 二一〇三番地	三十四年	後備使	砲兵騎卒	岡野庄太郎
神奈川縣三浦郡三浦町 下里三番地	四十四年	後備使	步兵一等兵	高木亮之助
神奈川縣三浦郡三浦町 下里三番地	大正元年	後備使	騎兵一等兵	齋田彌四郎
				以上

1928

人事局

司令長官



參謀長



人事長



副官



第五號



陸軍省  
人事局受

第一號

二〇二

大正五年六月二十四日

舞鶴海軍工廠長代理

海軍大佐海老原欣

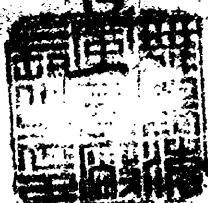
六月二十七日進達

海軍大臣加藤友三郎殿

勤務演習召集猶豫及簡閱點呼

免除ヲ要スル者ノ件

左記ノ者ハ當工廠造艇部職工ニシテ陸軍後備  
役一等卒ノ處露國軍艦ベレスウエート座礁救  
難為ノ目下浦塩斯德ニ派遣中ニ有之候然ニ  
急遽出發ノ為ノ陸軍軍人服役令施行規則第  
十六條ノ手續未済ニシテ且ツ歸期モ判明不致候



1929

人事局受  
五年六月廿九日

餘本年勤務演習召集猶豫及簡閱時免除  
 義起可相成候様御詮議相成度

右具申入

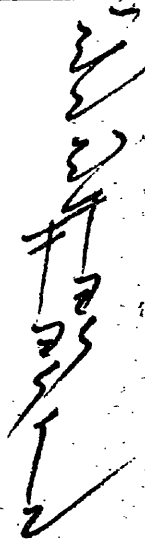
左記

現職名	兵	役	備官職名	兵種	等級	徵集年	本籍	及寄留地	氏名	記事	
職	工	後備役	歩兵	一等卒	明治四十年	本籍	神奈川県三浦郡新井町 三十二番地	寄留地	東京都加賀郡新井町 三十二番地	蒲谷新五郎	蒲谷新五郎 留地に於て コトニ係リテ 清見ノ

(終)

1930

電 報 着 信 紙

局 着		局 發		名氏所居人信受	
受 付 午後 後前	受 付 午後 後前	第 12	官 報		
九時五分	九時五分	日 號 局	局 報		
第 課長 猶豫申請要人 了工廠長ヨリ猶豫具 申、答		第 局員 善	定 指 本 配	番 號 信 一	紙 數 第 三 九 號
				名氏所居人信受 マホ 舞鎮副官	
				印 附 日 信 着	

1931

海軍

大正五年六月廿三日午後一時 北 分發信

人事局長 第卅課長

電報案

大正五年六月廿三日

發信者 馬 久

受信者 露 鎮 副 長

貴王殿より浦塩に派遣せらるる者ノ内陸軍ニ因依し者ノ滯留日集末等ノ  
猶豫ハ各本人より夫々手統済ナルキモ在り然ラサレハ常藉、姓名、坐落等、  
陸軍大臣名、氏名ヲ記シ申上セシハ当方ニモ手統済ラるレ得ル見込也

(笈田納)

1932

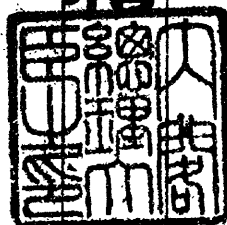
人事局

内閣  
号第五六四号

大正五年七月一日

内閣總理大臣伯爵大隈重信

指令



大正五年六月二十七日付官房第二〇二九號ノ三  
召集免除ノ件認可ス

官房第二〇二九號  
三

七月一日  
官房受

内閣

1933